

当園ではこの度、平成26年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価及び、学校関係者評価を実施いたしました。

教職員自己評価では、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直す非常にいい機会となりました。今年度の結果及び、教職員自己評価の結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

I. 園の方針

保育方針

『つよいからだ・ゆたかな心』を教育目標に掲げ、子ども達が遊びを通して、自ら学び、自ら行動出来るよう、実体験を大切にした教育を行い子どもが中心となる子どものための保育を目指している。また、子ども達だけではなく、取り巻く全ての方が『笑顔』でいられるよう、信頼関係を大切にした生活が出来るよう配慮した幼児教育をめざしている。

モットー

「すべては笑顔の為に」をモットーに子どもの自主性を大切にし、のびのびとした保育の下、子どもたちの成長の手助けをする。

本園の目指す幼児像

- ・健康で勇ましい、心と体をもつ
- ・何事にも興味をもって積極的に取り組み、最後まで粘り強くがんばる
- ・友を思いやり、仲良く遊ぶ(時には、我慢する気持ちを持つ)
- ・伸び伸びと生活をする
- ・美しいもの、キレイなものを素直に受け入れ、大切にすることを。

II. 本年度の重点項目と取組み状況

重点目標	取組み内容	評価	取組み状況
保育内容	見取り力のUP	A	年中クラスにおいて、27年度から予定している、保育形態の変更に向けてのプレを実施した。今までやったことのない形で、つき遊びを子どもからの自発的な声で進めていくというやり方を採用することができた。その際に、子どもが何をしていたか？の見取りを従来以上に意識したことで、教員の能力の向上が見受けられました。
教職員連携	伝える力のUP 協力・解決に向かう コミュニケーション	C	職員会議の活性化を目標に、会議での検討内容を事前に伝えたり、報告型の会議と、皆で考える会議で開催場所を変えたりと、いろいろなことを試しました。ある程度の効果はあったかと考えていますが、まだまだ高いレベルを求めたいと考え、C評価としています。次年度も継続的に課題として取り上げます。
園長の取り組み	保育におけるUPDAサイクルへの取り組み	B	27年度から予定している、保育形態の変更に向けての説明や、研修を実施した。園長が作成した長期計画と説明資料を基に、園の理念や価値観の共有から始め、目指す保育の形やねらいなどを、3～4回の研修という形で周知徹底し、次年度へむけた準備を整えることができた。

【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取組みが不十分である

III. 今後取り組むべき課題

1	職員室の 明るい雰囲気作り	昔からの組織風土により、現在先生が職員室にいるときは、あまり私語等はなく、皆黙々と仕事をしている。もちろん良いことでもあるのですが、簡単な打ち合わせや、情報共有などを毎日の会議以外でも気軽に職員室内でできるような雰囲気を作りたいと考えている。若手の先生を担当に任命して進めていこうと考えています。
2	会議の活性化	今年度からの継続項目となります。職員会議で、もっともって活発に意見がでるようにしたいと考えています。次年度は、中堅の先生を担当に任命して進めていこうと考えています。
3	新しい保育形態の 理解と実践	今年度で作成した、長期計画と本園のモットーである「すべては笑顔の為に！」の2つをもとに、従来のPDCAサイクルから、UPDAサイクル(U:理解)へと変換をしていく。園長主導のもと、研修や園内での話し合い、保護者への説明などに力を入れていきたいと考えています。

IV. 学校関係者評価

上記の通り、自己評価は適切に実施されていると判断できます。

園児数の多い中、先生方はひとりひとりの子どもをしっかり見ていてくれると感じています。次年度から保育形態を変更して、より子ども主導の保育を実践していただくことで、非常に期待しています。また、今年度は園庭の工事で砂場や井戸なども新しくなり、子どもたちも楽しそうに遊んでいる様子が見て取れます。

V. 点検型自己評価の結果

評価分類	評価項目	具体的確認項目	園長	平均	分類	園長との差
I. 教育内容	教育方針・目標	1 教育方針・目標は、園の特色を生かしたものになっている。	3	3.3		-0.3
		2 園の教育方針や目標を理解し、共感している。	2	3.3		-1.3
		3 園の方針や目標、園長の想いなどについて、教職員間で話し合い共通理解を深めている。	3	3.2		-0.2
		4 園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。	3	3.2		-0.2
		5 園の方針や目標について、保護者の理解を促すよう取り組んでいる。	3	3.2		-0.2
	幼稚園教育要領の理解	6 幼稚園教育要領について、教師間で話し合うなど、理解を深めるための取り組みを行っている。	2	2.5		-0.5
	教育課程の編成	7 園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育方針にしたがい編成されている。	2	3.0		-1.0
		8 園の教育課程は、園長が中心となり、教職員と協力し合って編成されている。	1	2.9		-1.9
		9 園の教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら、必要に応じて見直しが行われている。	2	2.5		-0.5
	指導計画の作成と評価	10 指導計画は、教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している。	2	2.5		-0.5
		11 指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している。	2	3.3		-1.3
		12 自分の保育と計画の評価・反省について、次の保育と計画に生かせるよう取り組んでいる。	3	2.9		0.1
		13 長期の指導計画は、マンネリ化しないよう見直しを行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成している。	3	2.7		0.3
		14 短期の指導計画は幼児の実態に合わせて、自由に変更できるような順応性のあるものになっている。	3	3.2		-0.2
		15 教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かしている。	3	2.7		0.3
		16 互いに保育を見せあって、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。	2	1.9		0.1
	17 個々の行事について、幼児の発達を考えながら実施し、子どもの実態やねらい等について教職員と話し合い、見直しを行っている。	2	3.1		-1.1	
	教育内容の保護者への周知	18 園の教育・保育のねらいや内容について、保護者に分かりやすく伝えるよう工夫している。	3	2.9		0.1
	教育環境の構成	19 子どもが安全で心地よく、幼児期にふさわしい生活が送れるような環境を整えている。	2	3.1		-1.1
		20 幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて、全身を使って活動することができる環境を整えている。	2	3.2		-1.2
		21 幼児を温かく受け入れる環境をつくり、人とかかわる力が育つような配慮をしている。	2	3.3		-1.3
		22 幼児が身近な自然や社会とかかわることを通して学ぶ環境を整えている。	2	2.7		-0.7
		23 幼児がさまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分発揮させることができるような環境を整えている。	2	2.9		-0.9
		24 教師の願いや意図を持って環境構成をしている。	2	3.2		-1.2
		25 幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。	2	2.8		-0.8
		26 幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している。	2	3.1		-1.1
		27 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている。	2	2.8		-0.8
		28 子どもがさまざまな異文化(国、人種、文化、言葉、行動等)を受け入れる配慮や環境、交流等を整備している。	2	1.6		0.4
		幼児のみと理解	29 幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう努めている。	3	3.5	
	30 一人の幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができる。		3	2.7		0.3
	31 個々の幼児の発達の姿や課題について見通しを持って理解できる。		2	2.8		-0.8
	32 幼児たちがいま興味や関心を持っていることが分かる。		2	2.8		-0.8
	33 幼児を自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている。		2	3.2		-1.2
	34 幼児の理解のために保護者と話し合う機会をもっている。		3	3.2		-0.2

評価分類	評価項目	具体的確認項目		園長	平均	分類	園長との差
I. 教育内容	指導とかかわり	35	幼児の姿を、家庭での生活をふまえて理解している。	3	3.3	2.9	-0.3
		36	幼児の姿を多面的にとらえることができる。	3	2.5		0.5
		37	幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてものを見つめたりしている。	2	2.9		-0.9
		38	一人ひとりの幼児の思いを把握して寄り添いながらかわっている。	2	3.1		-1.1
		39	「先生のようにやってみたい」と幼児が思うような、モデルとしての姿を心がけている。	3	3.1		-0.1
		40	教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている。	3	3.0		0.0
		41	善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなっている。	3	2.9		0.1
		42	幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している。	3	2.6		0.4
		43	幼児が行き詰っているときに、適切な援助をしている。	3	3.1		-0.1
	44	幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている。	3	3.0	0.0		
II. 教職員体制の充実	教職員同士の協力・連携	45	幼児のことについて常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	3	3.1	2.9	-0.1
		46	教職員全員が、すべての園児についてある程度理解しているようさまざまな工夫をしている。	3	2.6		0.4
		47	個々の幼児について、教職員で話し合う場合、定期的かつ必要に応じて持つことができる体制が整備され、機能している。	2	2.9		-0.9
		48	指導上配慮を必要とする幼児については、教職員全体で特によく話し合い、共通理解をもって対応している。	2	2.8		-0.8
III. 研修と研究	研修・研究への意欲・態度	49	研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している。	3	2.9	2.6	0.1
		50	研修会や研究会に参加する場合は事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめている。	3	2.4		0.6
		51	研修会や研究会では活発に発言している。	2	2.2		-0.2
		52	専門書や専門雑誌を読んでいる。	3	2.1		0.9
		53	自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行っている。	2	2.8		-0.8
		54	自分の保育のあり方や悩みについて、他の教師や主任、園長と話し合うことができる。	2	2.6		-0.6
	研修・研究への取組み	55	自園のテーマや重点項目等を定め、計画的に研修・研究が実施されている。	3	3.0	0.0	
		56	園内研修を一人ひとりの教職員の育成の場と捉え、特性を生かした園内研修・研究が計画的に実施されている。	2	2.8	-0.8	
		57	研修を終了した教職員が、研修内容を発表する機会を設けるなど、成果を共有する仕組みがあり、機能している。	3	3.3	-0.3	
		58	教育内容の質の向上や改善のために、園長や教職員で話し合うなどの取組みを行っている。	3	2.9	0.1	
		59	個々の教職員が自分の課題を把握し、その課題を達成できるような指導体制があり、機能している。	2	2.5	-0.5	
		60	幼児の体力づくり、運動機能のバランスのとれた発育・発達を促す体育あそびやその指導方法を研究している。	2	2.5	-0.5	
		61	アレルギー、自立の遅れなど、最近多くみられる問題について理解するよう取り組んでいる。	3	3.0	0.0	
		62	子どものみとりの内面理解について、研修・研究を行っている。	2	2.6	-0.6	
		63	指導計画の作成や記録の取り方、考察のあり方について、研修・研究を行っている。	3	2.5	0.5	
		64	指導とかかわりのあり方について、研修・研究を行っている。	2	2.5	-0.5	
65	保育者同士の協力・連携の在り方について、研修・研究を行っている。	2	2.5	-0.5			
66	保護者への対応のあり方について、研修・研究を行っている。	2	2.5	-0.5			
67	療育専門機関と連携をはかりながら、障害のある幼児に対する保育のあり方について研修・研究を行っている。	3	2.5	0.5			
68	園の遊具や教材のさまざまな利用方法について研究している。	4	2.9	1.1			

評価分類	評価項目	具体的確認項目		園長	平均	分類	園長との差
IV. 安全・衛生管理	安全への配慮	69	体調が悪そうなときは、静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い、すぐに家庭へ連絡している。	3	3.7	3.5	-0.7
		70	けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉かけを行っている。	3	3.5		-0.5
		71	危険が予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり、考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている。	2	3.4		-1.4
		72	クラスの中の水道付近の清掃や、換気、採光、室温などに気をつけている。	2	3.4		-1.4
		73	トイレの清掃やトイレの使い方について配慮し、幼児にも正しい使い方を具体的に示している。	3	3.5		-0.5
IV. 安全・衛生管理	安全管理体制の整備	74	緊急時(事故やけが、感染症の発生時など)の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	2	3.2	2.8	-1.2
		75	事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	2	3.3		-1.3
		76	水周り等の衛生管理について、その手順やルールが定められている。	2	2.5		-0.5
		77	食中毒の発生時における対応手順を理解している。	2	2.0		0.0
		78	子どもたちに対する安全教育を実施している。	3	2.8		0.2
		79	施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	3	2.9		0.1
		80	施設・設備は常に整備され、室内は清潔で整理整頓が行き届いている。	3	2.9		0.1
		81	児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	3	2.6		0.4
V. 保護者との連携	情報の発信と受信	82	個々の子どもの様子は、直接話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝え合っている。	3	3.4	3.3	-0.4
		83	家庭の状況や保護者との情報交換の内容を、必要に応じて適切に記録している。	3	3.3		-0.3
		84	保育中のけがや病気は、速やかに保護者へ連絡を入れ、状況や原因を説明の上、通院するなどの対処をしている。	3	3.5		-0.5
		85	保護者から意見や提案、クレーム等を受けた際の対応手順を理解し、速やかに対応している。	3	3.2		-0.2
		86	保護者や利用者を対象とするアンケートを実施し、その結果を、今後の保育の参考として活用している。	2	3.2		-1.2
	協力と支援	87	保育参観や保護者会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	3	2.9		0.1
		88	子どもの食生活を充実させるために、家庭と適切に連携している。	3	2.8		0.2
	守秘義務の遵守	89	個々の子どもの情報は口外していない。	3	3.7		-0.7
		90	保護者、家族の情報は口外していない。	3	3.7		-0.7
91		子どものプライバシー保護について、規定・マニュアル等が整備され、基本的な知識や姿勢・意識が教職員に周知されている。	3	3.5	-0.5		
VI. 地域との連携	地域の人々・自然とのかかわり	92	地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている。	4	3.1	2.8	0.9
		93	散歩や公共施設等において、高齢者や地域の人などのかかわりを持ち、愛情や信頼感を持つよう取り組んでいる。	3	3.1		-0.1
		94	地域の自然や施設の場所、交通機関、主な行事等について理解している。	3	2.9		0.1
		95	地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している。	3	2.6		0.4
	地域への開放と支援	96	地域開放や子育て支援のあり方について、教職員間で話し合っている。	2	2.6		-0.6
		97	園がもつ専門的な技術や情報を、地域に開放・提供している。	2	2.4		-0.4
		98	地域の子育てセンターとしての機能を発揮している。	2	2.5		-0.5
	地域の機関や団体との連携	99	園の役割や機能を達成するために必要となる、地域のさまざまな機関や団体と適切に連携している。	2	2.7		-0.7
		100	小学校の教育内容について理解しようとしている。	2	2.8		-0.8

幼稚園第三者評価 報告表

本表の位置付け

■本表は、学校法人旭川中央学園旭川ふたば幼稚園(旭川市)の幼稚園学校評価のうち、自己評価に関する内容を、第三者的な立場から調査・確認したものである。

■本表は、弊社が対象法人より提供された資料、及び対象法人の園長を始めとした教職員へのヒアリングに基づいて作成しております。弊社は提供を受けた資料の真実性・正確性・妥当性について保証するものではなく、また本表内の将来予測及び、見込みの情報に関する実現可能性について、弊社は何ら責任を負うものではありません。

・本資料に関するお問い合わせ先

指吸会計センター株式会社 経営コンサルティング事業部
〒590-0026 大阪市堺市堺区向陵西町4-5-5 ゆびすいビル
TEL:072-221-2791 FAX:072-222-3706 担当:石川 泰令

I. 評価の総評

本項目では、第三者評価のうち特に注目すべき点について、詳細な説明を行うと共に、評価の着眼点について述べる。また、対象園は2年連続での受審であるため、昨年度との変更点について、重点的に述べる。

1. 園の特色について

対象園を運営する、学校法人旭川中央学園は、昭和26年に設立された、財団法人旭川中央洋裁女学校原点に持つ学校法人であり、対象園である旭川ふたば幼稚園は、旭川市東部に於て今年度で設立41年目を迎える園である。地域としては幼児人口の減少が続くなか、地域住民からの信頼は厚く、ここ数年は定員を超える園児数となっていたため、道と協議の上、次年度より定員を増加することとなっており、市内東部の幼児教育の拠点として機能している。

従来より、保育内容の質の向上に注力しており、外部研修の受講や園内研修も積極的に行っている。特徴的であるのは、しっかりとした長期計画を有する点であり、計画通りに平成27年度より、保育形態を一部変化させる予定としている。その為26年度は特に保育形態の変更に向けた研修を積極的に、受講・実施している。

2. 保育の特色について

5項目からなる「建学の精神」があり、それを受けて「つよいからだゆたかなこころ」という教育目標を掲げて長年教育に取り組んでいる。昨年の第三者評価において、「上記した「建学の精神」「教育目標」「モットー」の他にも「目指す幼児像」「保育の特徴」と言った記述が見られる他、園内には心構えを書いた評語のようなものもいくつか見られたため、これらの優先順位をはっきりとしなければ、教職員さんが混乱してしまう可能性もあると考えられる。」という指摘をさせていただいた点をふまえて、今年度は園長が「すべては笑顔の為に」というモットーのもとに作成した、すべての情報を体系化した40ページ近いボリュームの資料を配り、それを元にした研修も年内に積極的に行っている。

保育の特色としては、次年度から新たにUPDAサイクル(U: understand理解 P: plan計画 D: do実行 A: action改善)という考え方を取り入れ、子どもの育ちを理解したうえで保育を展開していく予定となっている。

3. 指導とみとりについて

上記の通り、次年度より従来のPDCAサイクルではなく、UPDAサイクルを実施していくにあたり、教師が子どもを見取る力(理解)が、これまでよりもより重要となってくることを認識し、今年度は特に園内研修に力を入れ、見取る力の向上に取り組んでいる。

教師が先導する保育ではなく、「子どもが主体となる保育」を実践するにあたり、カリキュラムの見直しなども予定しており、今後の成果が期待できることである。

このような積極的な取り組みは、全国的に見ても非常に珍しいものであり、是非とも今回の取り組みに関して、取り組み内容と成果、子どもの変化などをまとめて、研修の場などで、他の園の先生方にも取り組みを紹介していただきたいと考える。

4. 研修への取り組みについて

今年度も研修の実施回数、受講回数ともに多く、積極的に参加していると見受けられる。先生方が受講されている保育の技術に関する研修はもちろん、園内研修も多い。また園長自ら夏休み期間中は東京・京都などへも積極的に研修に参加し、園の経営・人事育成・子ども子育て新制度など保育技術以外の研修も受講していらっしゃることは評価できる。

5. 安全への配慮について

園内は清掃も行き届いており、園児たちは階段の昇り降りの際にたとえ先生が見ていなくても自発的に左側通行をするというルールが身につけており、安全への意識は園全体から非常に強く感じる。今年度園庭に新しい遊具設備(井戸や砂場)や遊具(ストライダーなど)を導入されているため、新しい設備や遊具での怪我・事故などには、十分注意していただきたいと考える。

6. 地域・保護者との連携について

保護者アンケートの結果からも、保護者との連携がうまく機能していることがうかがい知れる。歴史も古く、園児も多いため、近年は卒園児のお子さんが入園してくれることも多いらしく、地域・保護者との連携は十分に取れていると判断できる。

Ⅱ. 第三者視点による項目別評価

・評価手法

この項目別評価では、理事長・園長・教頭へのヒアリング・園の視察、園で管理している、月案・職員会議録・園児募集のパンフレット等の各種書類、及び規程類等を元に調査を行い、担当者が客観的な評価を行った。尚評価の参考資料として、平成26年度の教職員自己評価の結果を使用している。

■本評価表の見方



評価分類	評価項目	具体的確認項目	記入
Ⅰ. 教育内容	教育方針・目標	1 教育方針・目標は、園の特色を生かしたものになっている。	4
		2 教職員は園の教育方針や目標を理解し、共感している。	4
		3 園の方針や目標、園長の想いなどについて、教職員間で話し合い共通理解を深めている。	4
		4 園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。	4
		5 園の方針や目標について、保護者の理解を促すよう取り組んでいる。	4
	幼稚園教育要領の理解	6 幼稚園教育要領について、教師間で話し合うなど、理解を深めるための取り組みを行っている。	4
	教育課程の編成	7 園の教育課程は、幼稚園教育要領の精神を踏まえ、園の教育方針にしたがい編成されている。	4
		8 園の教育課程は、園長が中心となり、教職員と協力し合って編成されている。	4
		9 園の教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら、必要に応じて見直しが行われている。	4
	指導計画の作成と評価	10 指導計画は、教育要領、教育課程、幼児の実態などをもとに考えて作成している。	4
		11 指導計画は幼児の興味や関心、これまでの生活の様子、予想されるこれからの生活などを考慮して作成している。	4
		12 自分の保育と計画の評価・反省について、次の保育と計画に生かせるよう取り組んでいる。	4
		13 長期の指導計画は、マンネリ化しないよう見直しを行い、幼児の実態や周囲の状況の変化に対応できるように作成している。	4
		14 短期の指導計画は幼児の実態に合わせて、自由に変更できるような順応性のあるものになっている。	4
		15 教師間で互いの保育について話し合い、評価・反省をして次の保育に生かしている。	4
		16 互いに保育を見せあって、検討し、評価・反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。	4
		17 個々の行事について、幼児の発達を考えながら実施し、子どもの実態やねらい等について教職員と話し合い、見直しを行っている。	4
	教育内容の保護者への周知	18 園の教育・保育のねらいや内容について、保護者に分かりやすく伝えるよう工夫している。	4
	教育環境の構成	19 子どもが安全で心地よく、幼児期にふさわしい生活が送れるような環境を整えている。	4
		20 幼児がそれぞれの興味や関心、能力に応じて、全身を使って活動することができる環境を整えている。	4
		21 幼児を温かく受け入れる環境をつくり、人とかかわる力が育つような配慮をしている。	4
		22 幼児が身近な自然や社会とかかわることを通して学ぶ環境を整えている。	4
		23 幼児がさまざまな表現を楽しみ、表現する意欲を十分発揮させることができるような環境を整えている。	4
		24 教師の願いや意図を持って環境構成をしている。	4
		25 幼児の発達段階に即した遊具や用具、素材などを用意している。	4
		26 幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成している。	4
		27 異年齢の幼児が自然に交流できるような環境構成をしている。	3
		28 子どもがさまざまな異文化(国、人種、文化、言葉、行動等)を受け入れる配慮や環境、交流等を整備している。	3

評価分類	評価項目	具体的確認項目	記入
	幼児のみとりと理解	29 幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう努めている。	4
		30 一人の幼児をじっくりと見ながら、周囲にも目を配ることができる。	4
		31 個々の幼児の発達の姿や課題について見通しを持って理解できる。	4
		32 幼児たちがいま興味や関心を持っていることが分かる。	4
		33 幼児を自分の一方的な感じ方や考え方で決めつけないようにしている。	4
		34 幼児の理解のために保護者と話し合う機会をもっている。	4
		35 幼児の姿を、家庭での生活をふまえて理解している。	4
		36 幼児の姿を多面的にとらえることができる。	3
	指導とかかわり	37 幼児に合わせて同じように動いてみたり、同じ目線にたつてものを見つめたりしている。	4
		38 一人ひとりの幼児の思いを把握して寄り添いながらかかわっている。	4
		39 「先生のようにやってみたい」と幼児が思うような、モデルとしての姿を心がけている。	3
		40 教師らしい品位ある言葉、正しい日本語の用法を心がけている。	3
		41 善悪の判断、いたわり、思いやりなどの道徳性を培う上でもモデルとなっている。	4
		42 幼児が遊びを深めていくためのヒントやアイデアを提供している。	4
43 幼児が行き詰っているときに、適切な援助をしている。		4	
44 幼児が自ら考えたり工夫したりできるような見守り方をしている。	4		
Ⅱ. 教職員体制の充実	教職員同士の協力・連携	45 幼児のことについて常に教職員間で話し合い、クラス、学年をこえて情報を共有している。	3
		46 教職員全員が、すべての園児についてある程度理解しているようさまざまな工夫をしている。	4
		47 個々の幼児について、教職員で話し合う場を、定期的かつ必要に応じて持つことができる体制が整備され、機能している。	4
		48 指導上配慮を必要とする幼児については、教職員全体で特によく話し合い、共通理解をもって対応している。	4
Ⅲ. 研修と研究	研修・研究への意欲・態度	49 研修会や研究会には自己課題をもって進んで参加している。	4
		50 研修会や研究会に参加する場合は事前にその内容を確認したり、自分なりの考えをまとめている。	4
		51 研修会や研究会では活発に発言している。	3
		52 専門書や専門雑誌を読んでいる。	3
		53 自分の保育については自己課題をもって計画と反省を行っている。	4
		54 自分の保育のあり方や悩みについて、他の教師や主任、園長と話し合うことができる。	3
	研修・研究への取組み	55 自園のテーマや重点項目等を定め、計画的に研修・研究が実施されている。	4
		56 園内研修を一人ひとりの教職員の育成の場と捉え、特性を生かした園内研修・研究が計画的に実施されている。	3
		57 研修を終了した教職員が、研修内容を発表する機会を設けるなど、成果を共有する仕組みがあり、機能している。	4
		58 教育内容の質の向上や改善のために、園長や教職員で話し合うなどの取組みを行っている。	4
		59 個々の教職員が自分の課題を把握し、その課題を達成できるような指導体制があり、機能している。	3
		60 幼児の体力づくり、運動機能のバランスのとれた発育・発達を促す体育あそびやその指導方法を研究している。	3
		61 アレルギー、自立の遅れなど、最近多くみられる問題について理解するよう取り組んでいる。	4
		62 子どものみとりとその内面理解について、研修・研究を行っている。	4
		63 指導計画の作成や記録の取り方、考察のあり方について、研修・研究を行っている。	4
		64 指導とかかわりのあり方について、研修・研究を行っている。	3

評価分類	評価項目	具体的確認項目	記入
	研修・研究への取組み	65 保育者同士の協力・連携の在り方について、研修・研究を行っている。	3
		66 保護者への対応のあり方について、研修・研究を行っている。	3
		67 療育専門機関と連携をはかりながら、障害のある幼児に対する保育のあり方について研修・研究を行っている。	4
		68 園の遊具や教材のさまざまな利用方法について研究している。	4
IV. 安全・衛生管理	安全への配慮	69 体調が悪そうなときは、静かに寝かせたり検温をするなど適切な処置を行い、すぐに家庭へ連絡している。	4
		70 けがや事故には特に気をつけ、年齢に応じた適切な環境構成や言葉がけを行っている。	4
		71 危険が予測される場合は、幼児たちと一緒に見たり、考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにしている。	3
		72 クラスの中の水道付近の清掃や、換気、採光、室温などに気をつけている。	4
		73 トイレの清掃やトイレの使い方について配慮し、幼児にも正しい使い方を具体的に示している。	4
	安全管理体制の整備	74 緊急時(事故やけが、感染症の発生時など)の対応手順について、全教職員が共通理解をもてるよう取り組んでいる。	4
		75 事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて、教職員間で話し合う仕組みが機能している。	4
		76 水周り等の衛生管理について、その手順やルールが定められている。	4
		77 食中毒の発生時における対応手順を理解している。	3
		78 子どもたちに対する安全教育を実施している。	4
		79 施設のハード・ソフト両面から、適切な防犯体制を整えている。	4
V. 保護者との連携	情報の発信と受信	80 施設・設備は常に整備され、室内は清潔で整理整頓が行き届いている。	4
		81 児童虐待の発見やその対応等についての手順や方法を理解している。	3
		82 個々の子どもの様子は、直接話をしたり、電話、連絡帳などを使って伝え合っている。	4
		83 家庭の状況や保護者との情報交換の内容を、必要に応じて適切に記録している。	4
		84 保育中のけがや病気は、速やかに保護者へ連絡を入れ、状況や原因を説明の上、通院するなどの対処をしている。	4
	協力と支援	85 保護者から意見や提案、クレーム等を受けた際の対応手順を理解し、速やかに対応している。	4
		86 保護者や利用者を対象とするアンケートを実施し、その結果を、今後の保育の参考として活用している。	3
	守秘義務の遵守	87 保育参観や保護者会などを開き、子どもについて、保育について、家庭でのあり方について、共通理解を得るよう取り組んでいる。	4
		88 子どもの食生活を充実させるために、家庭と適切に連携している。	4
		89 個々の子どもの情報は口外していない。	4
地域の人々・自然とのかかわり	90 保護者、家族の情報は口外していない。	4	
	91 子どものプライバシー保護について、規定・マニュアル等が整備され、基本的な知識や姿勢・意識が教職員に周知されている。	4	
	92 地域の人々と親しくあいさつや会話を交わしている。	4	
	93 散歩や公共施設等において、高齢者や地域の人などのかかわりを持ち、愛情や信頼感を持てるよう取り組んでいる。	4	
地域への開放と支援	94 地域の自然や施設の場所、交通機関、主な行事等について理解している。	4	
	95 地域の自然や機関を指導計画の中で位置づけて活用している。	4	
	96 地域開放や子育て支援のあり方について、教職員間で話し合っている。	3	
地域の機関や団体との連携	97 園がもつ専門的な技術や情報を、地域に開放・提供している。	4	
	98 地域の子育てセンターとしての機能を発揮している。	4	
		99 園の役割や機能を達成するために必要となる、地域のさまざまな機関や団体と適切に連携している。	4
		100 小学校の教育内容について理解しようとしている。	3